

## 津久井やまゆり園事件初公判後の記者会見の概要 (R2. 1. 8)

### 1 日時

令和2年1月8日(水) 14:50~15:28

### 2 場所

横浜情報文化センター 7階 大会議室

### 3 かながわ共同会からの出席者

理事長 草光 純二  
津久井やまゆり園園長 入倉 かおる

### 4 概要

(理事長) 皆様、今日は早朝からお疲れさまでございます。私かながわ共同会理事長の草光と申します。よろしくお願いいたします。本日は入倉園長一人が代表で傍聴いたしました。その他私どもの職員数十名が並びましたけれども、全然当たりませんでした。でも1席傍聴ができて良かったかなと思います。よろしくお願いいたします。

(園長) 津久井やまゆり園園長の入倉でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(記者) まず代表で一つ質問させていただいた後、各社質問してください。よろしくお願いいたします。最初なんですけれども、お二人にうかがいます。どのような気持ちで初公判を迎えたかがいます。園長に対しては、彼が退所以来、恐らく4年ぶりにご覧になったと思いますが、被告の印象について、よろしくお願いいたします。

(理事長) 本日初公判ということでいよいよ迎えたなど、事件後ちょうど3年半経ったということで、本当にある意味では長かったなという思いでございます。裁判が始まるまでに非常に時間がかかったなという思いでございます。事件そのものについては、ついこの間のように思うこともあれば、非常にさまざまな思いが募ると思います。まあ、それだけ裁判に時間がかかったということは、とてつもなく準備のために時間を要した、大きな、大変大きな事件だったということもうかがえます。また、今朝の寒い小雨の中、発表によりますと2千人近くの傍聴を求められた方々が並ばれたわけですけれども、それだけ社会に大きな関心を持った事件であったということで、改めてその思いを深くしたわけでございます。

裁判を迎えるにあたっては、本当に3年半前、19名の尊い命が奪われたということ、そして24名の方が傷つかれ、5名の職員も被害に遭ったという甚大な事件でございました。毎年の追悼式、あるいは法人では毎月26日を法人祈りの日と定め、その都度亡くなった方19名の方々のご冥福を祈りながら、法人全体が心を一つにして思いを新たにしているわけでございます。そしてここでいよいよ裁判を迎えるにあたっては、改めて亡くなられた方のご冥福をお祈りしたいと思います。そして、ご遺族の方も、どなたが今日来られたかは詳しく私は分かりませんが、いろいろな思いで傍聴されていると思います。そして被害に

遭われたご家族もさまざまな思いで今日の日を迎えられたと思いますし、それぞれが複雑な思いであるかと思っております。私ども、この裁判を迎えるにあたって何を裁判に期待するかということは、さまざまな報道の記事であるとか、広く言われていることでありますけれども、やはり一番知りたいのは、なぜ私どもがこの19名の尊い命を守れなかったか、本当に悔恨の念をもって、申し訳なかったと思う中で、なぜこういう事件が起きたかということですか。言い換えますと、犯人のこうした犯行の動機であるとか、あるいはそこに至った思想的、いわゆる障害者はいらないというとんでもない思い、考え方がどのように形成されたのか、ということですか。もちろん3年ちょっとの間、当法人、津久井やまゆり園での職員でもありましたので、その時のことも考えなければなりませんけれども、またこれからの裁判の論点は報道によりますと、事実関係は争わない、あるいは精神鑑定によって得られた判定結果をもとに、責任能力が争点になっていくと言われておりますけれども、それは重要なことだと思いますが、私どもは、むしろ精神鑑定や精神科の診察などから、どれだけ彼の心の形成といったものが幼少期からずっと成長してその犯行に至るまでの間、どのように精神的な面での、あるいは性格的な面が醸成されていったか、そういったことも明らかになるのであれば、それも知りたいなと思っております。ご遺族の方々が一番思っておられるのが、自分のところのお子さんがどうしてこういう被害に合わなきゃならなかったという理不尽な思いもさることながら、被告がなぜこのような犯行に及んだのか、そして、なおかつ、事件後3年半にもわたって一向に彼の独特の特異な考え方が、反省もなければ全く変わらないということも報道で聞いている中で、一言でもいいから謝ってほしい、償ってほしい、そういう思いが多いように思っております。それは我々、皆もそう思っています。何かこの3月16日の結審までの間で、一言でもそういった、謝罪と言いますか、償いと言いますか、そういった言葉が聞かれることを非常に望んでいるかと思っております。

そういう意味では、後ほど入倉園長が申すかと思っておりますけれども、今日の午前中の本人の最初の発言の後、不測の事態があったという報告を受けました。そのことは、それだけ確たる信念を持って、一向に変えないという彼の明確な考え方があるのであれば、しっかりと正々堂々と裁判を受けていただきたかった。まだこれから裁判は続きますが、少なくとも初公判の時にきちっと姿勢を示してもらいたかった。なぜ、そこでそのような行動を取ったのかということ、一つ大きな疑念が湧きます。やはり彼はそれだけ報道によるほど強い意思と考え方を持っていてもですね、ここでやはり弱さが出たのではないかと勝手に想像しておりますけれども、これは今後の裁判の経過であるとか、その中で明らかになってくると思っています。

その意味で、私ども法人としてもこの裁判の経過を司法の場において、しっかりとどういう事実があったのか、先ほど申しましたように、犯行の動機あるいは特異な思想が形成された背景、そんなところもしっかり確認していきたいと思っております。

この裁判が結審されて終わるのではなくて、この津久井やまゆり園事件をずっと末長く多くの方々の心にとどめながら、その思いは決してこのような事件は二度とあってはならないというのはもちろんでございますけれども、一番の願いは、差別的な考え、異質なものを排除する、こういった思想を許してはならないということですか。日本全体、あるいは

世界全体の中で大きな流れの中では決して好ましい方向に行っているというよりは、非常に危惧する状況に進んでいるという状況にあるのではないかと思っています。それだけに私たちは身近な仕事を通して、障がいのある方々が決して差別を受けてはならない、本当に普通に社会参加して私どもと共に生活していただきたいということを願っているわけです。

ご存じか分かりませんが、私はいつも着けております、これはイエローバッジでございます。これは、障がい者の社会参加を進める、あるいは人権を守っていくという願いを込めた全国的な運動のバッジでございますけれども、この願いとともに、この事件を発端として県が定めました「ともに生きる社会かながわ憲章」こういったことの意味合いを、広く皆さん方に今一度きちっと認識していただいて、広めていただくことを願っています。どうぞ皆さん方にもそういった役割の上でそういった私どもの願い、あるいはご遺族の願い、あるいは日本中のこういった障がい福祉、福祉全般とも言えるのでしょうか。さまざまな願いを受け止めて、好ましい方向に導いていただくようお願いしたいと思います。まず私からは以上でございます。

(園長) よろしく願いいたします。私、今日、法人として特別傍聴席を1席、裁判所のご配慮で用意していただきまして、職員の協力も得てですね、一番最初に並んで入ることができました。

数日前から、4年前に退職した今回の被告と会うんだなということを、何となく日にちが迫ってくるにつれて、ちゃんと気持ちを落ち着かせて対面しようと、職員を代表してその場に立ち会おうと思ったわけですが、実際に本人を見ても、特に私のほうの心が動くようなことはなく、4年前に比べてちょっとぼっちゃりしたかなとか、ちょっと4年経って4歳年とったんだなあというような感じの思いがしました。

最初に本人確認というんでしょうか、名前とか年齢、本籍、住所を言う場面があるんですけど、やけに小さい声だったこと、自信なげな、か細い声だったことをすごく印象に残っております。その声で、やはり今日の初公判をかなり緊張して迎えたんだらうなということを感じました。最初の印象はそんなところでございます。

(記者) 傍聴されていて、午前中閉廷に至った時の植松被告の様子を見ていらっしゃっていて、園長から見ていて、彼がどういう行動を起こしたんだらうというのはどう感じて・・・(我々は) 後ろから見ているので。

(園長) はい。

(記者) 可能な範囲で教えていただければ。

(園長) 私、一番前の席に座らせてもらっていたんですけども、裁判長さんが「短い間だったらいいですよ。」ということで、被告にしゃべる場面を与えたんだなということが分かって、「申し訳ありませんでした。」と言った直後に、腰をかがめたまま何かしたという感じでした。手を口元にあてて何かをしたという感じがして、一瞬にして異様なこと、事態になったなということは感じたんですけども、それが、手を口に入れたのか、舌を噛もうとしたのか、首を絞めようとしたのかはまったく分からないですけども、あの一瞬の雰囲気が変わった中で、大変なことをしたなというのは感じて、それ以降、背中が真っす

ぐになることはなくて、係官の人が大勢で取り押さえられたという形で、もう後は私のすぐ足元のところにホールドされている状態でした。

(記者) ホールドされているときは、植松被告から何か言葉が発せられたりだとか・・・。

(園長) 全然もう、うつ伏せの状態でしたし、その上に何人もの係官の方が覆いかぶさっていましたから、一番下にいるのだらうとは思ったんですけども、私たちはもう退席するように言われたので、そこをじっと見ていることもできませんでした。

(記者) その後、被告が退廷させられたとの報道について、理事長のほうでは、彼の弱さというか正々堂々とやってほしかったというようなことをおっしゃいましたが、そのことについて園長はどのように思われますか。

(園長) そうですね。やっぱり私としては目の前でああいうことがあって驚いてしまって、その一瞬は特にどうこうは思わなかったですけども、ロビーのほうに出てから、いろいろ考えましたけれども、やっぱり今回の3年半前の事件のときと同じで、何と浅はかなというか、何と愚かな奴なのかなというふうな感じにしか思えませんでしたね。多くの報道の方々から接見をしていただいて、新聞や雑誌で接見した記録をいろいろ見させていただいていますけれども、やっぱり死ぬことに対する不安だとか、刑は軽くしてもらいたいということ言っていたのは、きっと本心だと思うんですけども、でも初公判のあの場にずっと身を置いている度胸もなくて、ああいうことをするしかなかった愚かな人間だったのかなというふうに、何か失礼な言い方ですけども、思ったりしました。

(記者) 謝罪の言葉については、お二人はどう受け止められましたか。

(園長) 数日前からというか、新聞報道でも「気合を入れて謝罪する。」とか書いてあったりしました。周りから謝罪を求められているんだよっていうことは、囲われている暮らしの中でも彼に届いていたのかなという気がして、謝罪をするということの意味、謝るといふことの深さというものがまったく感じられずに、謝る言葉を発することで何か一つ義務を果たせるのであったら謝るよ、というような感じに、私なんかは新聞を見ていたときからそんなふうに感じていました。「短い間だったらいいですよ。」と言って裁判長に認められた時に、ああ謝罪するのかと私は思いました。

(理事長) 今日の公判の場ではありませんけれども、彼が謝罪したという報道の記事を見たのは、相当、もう1～2年前だと思えますけれども、その時の意味合いが彼は申し訳なかったという、謝罪する相手はご遺族であったり、そういう周りの方々に対して申し訳なかったということは言ったということですが、一番謝るべき亡くなられた利用者の方、怪我をされた利用者の方に対してきちっと謝ったという発言は、報道あるいは接見された方の報告の中では確認はしておりません。本来は、そこが一番大切なところではなかったのかなと思っております。

(記者) 入倉さんにお聞きしたいのですが、先ほど本人を間近に見て、心が動くことはなかったというふうにおっしゃられましたが、それはなぜか。なぜそういう心境なのか、自分なりに受け止めているかということをお答えいただきたいのと、検察官が、検察側は、最初はいかがいって当事者は思っていたのが、やがて、いなくなればよいといった中で考えが出てきたんじゃないかという主張がありましたが、その点に関して今のお考えをお聞かせ

ください。

(園長) 心が動かなかったという表現がちょっと何か適切じゃなかったかもしれないんですけども、もっと実際の姿を見て何かを感じるかなと思ったんですけども、特にそういうことがなかったのは、それはやはり皆さんの、報道関係者の皆さんがよく新聞等で接見したときの似顔絵とか、そういうものを載せていただいていたことによって、最近はこんな雰囲気なのかなっていうのを、新聞で見っていたのとあまり変わらなかった。髪の毛が長くなってることなんかも、そういう似顔絵で見っていたので、そういう意味で「あっ」というふうに驚きはなかったのかなと思います。検察官の方からの説明の中に、やはり同じフレーズが何度かあって、勤務している中で、津久井やまゆり園で勤務している中で感じたことと社会情勢ということが、2つ並べて必ず出ていたことが、社会情勢という表現になるんだなと思ったんですけども、私どもが事件前にどうにかキャッチした情報としては、当時、アメリカ大統領選で、トランプ氏がその当時候補者だったんですけど、当選したら自分は救われるみたいなことを言っているらしいということを知ったことがあって、そのことだなっていうことを感じました。

津久井やまゆり園で勤務している中でという言葉から感じたことは、障害の重たい方々の支援を苦手としていたと私たちは思っています。皆さんのほうにも言ったこともあるのかもしれないですけども、車いすに乗っている方、ペースト食、軟らかくなっているお食事を召し上がっている方たちのことを、とてもその人たちが生きている価値、その人たちの価値の話、そういう人たちがとても手がかかっていたということをお話しされていたように聞いています。そういう人たちとの一緒に暮らしを楽しみきれなかったなというのは感じています。それは私どもの簡単に言うと指導不足というのものもあるのかもしれませんが、それとは並行して、とても気にかけていた利用者の方は実はいて、この方のことはとても気になって、一緒に出かけたいとか、その人が病気だったら大丈夫かなと思ったりとか、そういう愛情を注いでいた利用者の方もいたわけです。そういう意味では、ちょっと落ちこぼれ的なところはあるけれども、みんな同じ道りで進んでいる、そういう道りを3年間歩んでくれていた一人だと思っていました。誰も苦手な仕事はありますし、得意な仕事もちろんある中で、一人ひとりの職員の得意なところに光を当てて伸ばしていったのが私どもの仕事でしたけれども、その3年間弱の中で、気持ちに変化があったのがいつだったのか、その辺、私どもがキャッチしきれなかったというのはあったのかなというふうに思います。

(記者) 先ほども出ましたけれども、一言許された時に植松被告が「深くお詫びする。」という言葉を出したわけですけども、想像になってしまいますが、そのお詫びするといった、謝るといった言葉は誰に向けられたものだとお考えでしょうか。

(園長) わりと直後からご家族の人たちに対しては、突然家族の命が奪われて驚かして申し訳なかったということを接見の中でも言っていることを見ていますので、そういう驚かせてしまった、迷惑をかけてしまった周りの人に対してなのかなというふうに感じています。

(記者) 今の関連なんですけど、亡くなったご本人ではない。

(園長) そうですね。はい。

(記者) 弁護側が、精神障害を理由に無罪を主張しているという件については、園長として罪を償ってほしいとの思いはどのようにおありですか。

(園長) これは法人としての見解でも何でもなく、私個人の思いですけれども、4年前に急に議長のところの手紙を持って行ったらしいということとか、勤務中にも何かそういう発言、「この人はこのままで幸せなんだろうか。」とか突然言い始めていますよという頃を感じたのは、そういうことです。この人はやっぱり病気になってしまったのではないかなと私は実は思いました。それまでもずっと、実は福祉というのは語り合う、障がいのある人がどうやったら幸せになるかみたいなことを語り合うことって、よくあったんですけれど、彼はそういうことをするタイプではなくて、仕事中に真剣になって先輩と議論をかわすとか、そういうことが得意な人ではなかったのです。突然、障がい者は生きていても仕方がないんだとか、不幸だとか、そんなことを突然言い始めたというのは、あまりにも周りも驚くような変化だったので、ああいう専門的な用語はまったく知りませんでしたけれども、何かちょっと病気になったのかなというのは思ったんですね。でも、だからといって、弁護側が説明していただいたように、だから無罪なのかというと、そこのところはやっぱり検察側のほうの説明のように、計画性があることですか、うまくいかないからやり方を変えたとか、そういうことなんかを聞いてくると、争点で責任能力の有無と程度となっていますけれども、病気はありつつも、程度・責任能力の程度は私はしっかりあったからこそあれだけの犯罪というか、45分間の中であれだけのことができた、まったく計画性がなければ、あんなことはできなかつたらうなと思います。

(記者) 入倉さんにおうかがいしたいんですが、傍聴前に被告の言葉とか3年あまりご覧になってきて「人の心が感じられなかった。」という印象をお持ちになったというところがありますが、それは傍聴して変わったかということと、被告が向き合えていないんじゃないかということもおっしゃっていましたが、その印象についても変化があったかどうかということをおうかがいします。

(園長) 実は、今日は予定では午後4時過ぎまで被告がいる同じ空間に自分も身を置いて、今おっしゃったようないろんなことを感じ取れる今日一日になるのかなと思っていましたけれども、本当に午前中あの短い期間だけだったので、何とも私自身も消化不良のまま、今日が終わってしまったという感じがします。直前の接見の記録でも、気持ちが高ぶっているようだけれども、謝罪はするという気持ちがあることを述べていて、その言ったとおりに、今日、その謝罪、謝罪という言葉、「申し訳ありませんでした。」という言葉が発したことが、何か被告にとっては予定どおりのシナリオだったのかなと思っていて、何ら本当の自分の素直な心を開いて、償うという態度を示したとは思えなかったですね。あんな形で終わってしまって、10日以降、どんなふうになって出てくるのかというのが、逆にまた心配な状況になってしまいました。

(記者) 10日以降の対応については・・・。

(園長) 10日以降の予定を裁判長に教えていただきましたので、本当にそれこそ私どももこういう流れについていくのが精一杯ですけど、ご遺族も含めて関係者の意見陳述のような日があるとか、そういうこともいくつか聞かせていただいたので、やはり初公判を前にこ

の日にち全部をしっかりと聞いて見届けていこうと法人全体で思ったわけですが、そういうふうに予定を組んで取り組むべきことだなということを改めて思った次第です。まだまだ裁判長さんの説明だけではその日一日の流れがうまく掴みきれていない部分もありますけど、専門家の方の証言があるということも聞きましたので、それら一つひとつをしっかりと法人として聞いていきたいなと思っています。

(記者) 今日は、亡くなられた 19 人の方と怪我をされた方、職員の方の思いも受け止めながら傍聴席にいらっしゃったと思いますが、その辺りを教えていただけますでしょうか。

(園長) パーティションがあるということは、報道等から分かっていましたし、その中に関係者の方がいらっしゃるといことも分かっていました。ご挨拶ができなくて非常に残念でした。何人かのご遺族の方、あと怪我をされた方のご家族の方と事前に話した中では、私どもよりもさらに、私なんかは到底足元にも及ばないくらい、ようやくこの日を迎えられるという気持ちでこの初公判を迎えているということ、電話でお話ししたときに感じたりしましたので、そういう思いの人たちがあのパーティションの隣にいて、一緒にあの部屋で、あの同じ空間で過ごせたということが、10 日以降の裁判にも繋がっていけるかなと思っています。

(記者) 園長の中で今日の初公判を迎えるにあたって期待していたこととか想像していたことに対して、今日一日の結果をどのように感じていらっしゃいますか。想定していたことも踏まえて、お話をうかがいたいと思います。

(園長) 想定していたのは、実は先ほど理事長が説明したように、もう少し共同会の職員数名で入りたかったというのは正直なところで、実は被告と一緒に働いていた職員も大勢並びました。整理券をもらいに来てくれました。ですから、本来は私よりもその人たちのほうがそこに立ち会う立場なのかなと思いましたが、そういう人たちと一緒に傍聴できなかったことが、想定と大きく違っていたなというところです。一つは先ほども言いましたけれど、ご遺族、怪我をされた方のご家族とはパーティションで分かれているということをももちろん承知しておりましたけれども、一切ごあいさつ等できなかったことが本当に残念ですし、ご遺族の方たちに対しても同じ場所に来ながらもご挨拶できなかったことが申し訳ないなと思ったところです。植松被告に対しては、今までも申し上げたとおり、弁護士さんの説明の印象がとて、「さん」を付けて説明するのは、きっと裁判というのはそうなのでしょう、「植松さん」と言って被告はこういう状態だったと説明してくれたことがとても印象的でした。あとは検察の方の説明が、私が事件当日の夜勤者の職員から一人 1 時間から 2 時間くらいかけて聞き取った内容を、よどみなく、あれだけの短い時間に説明してくれたことが感動したというか、こういうことが裁判なんだなということを感じました。

(記者) 一つ前のお答えの中で、何人かのご家族の方とお会いして、ようやくこの日を迎えられる気持ちがあったとおっしゃっていましたが、一番最初の質問になりますが、今日の植松の行動で、お二人のお話しをおうかがいしましたが、もしご遺族、今日いらしていたご遺族、ご家族もしくは来ていなくてもニュースとかでこの話を聞いたご遺族、ご家族は、今日の植松被告の行動をどのように感じると思われますか。

(理事長) 冒頭、私が申しましたとおり、これだけ、多分ご遺族の方々も報道であるとか、接見された方々の報告等もかなり見ていただけると思いますので、未だにあの差別的な考え方が一向に変わっていない。信念を持って、ずっと維持・堅持しているという立場である被告が、では裁判でどのような、そのナマの声を聞きたいとかですね、そういう思いだったと思うんですけれども、それがそのような行動を取られるということは、まさに、私はご遺族の立場になれませんけれど、卑怯だなと思われたんじゃないでしょうかね。想像でございます。

(園長) 私もご遺族の方と今日、明日、連絡を取るようなことはありませんけれども、だいぶ時間が過ぎてから今日の日のことを振り返った時に初めてお言葉で聞けるとは思いますけれども、皆さんきつとどれほどの期待をしていたか分かりませんが、がっかりされたんじゃないのかなと思いますね。

(理事長) 逆に言いますと、同じことを申しますけれども、あれだけ言い張っていた被告がこのような行動を取るということは、逆に弱さを見せる。あるいは人間的な面があるんだなというふうに感じられたということもあるかもしれませんですね。もちろん皆さん、同じ人としての立場ですけれども、でも今まで突っ張っていたのがちょっと脆くも崩れたんじゃないかというような感じを受けられたんじゃないでしょうかね。

以上